



日本羽毛製品協同組合

日羽協ニュース

〔編集発行〕日本羽毛製品協同組合

〔事務局〕〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-12-4白鷺ビル7階

TEL 03-5649-2285 FAX 03-5649-2286 ホームページ <http://www.nichiukyo.org>

羽毛製品講演会を開催いたしました。



日本羽毛製品協同組合(日羽協)では、平成25年12月6日(金)羽毛製品講演会を開催し、組合員・賛助会員・関係団体46社から77名が来場しました。開会に際し、日羽協理事長柳場弘より挨拶があり、続いてフリーアナウンサー、吉田填一郎氏により、「私の体験談」と題し講演がありました。

巨人戦の野球中継、ゴルフ、箱根駅伝、ラグビー等スポーツの実況中継で活躍された吉田氏の過去の放送体験談の中でも特に印象的であった、巨人桑田投手の涙の復活登板やゴルフ日本シリーズでの尾崎直道選手の奇跡の優勝場面でのア



フリーアナウンサー

吉田填一郎氏

〈プロフィール〉

千葉県出身

中央大学経済学部卒業

日本テレビアナウンサー、

RF ラジオ日本アナウンサーを経て、

現在フリー

ナウンサー冥利の放送内容や言葉の使い方等、アナウンサーの観点から一般の社会人に共通する大変示唆溢れる講演内容でした。

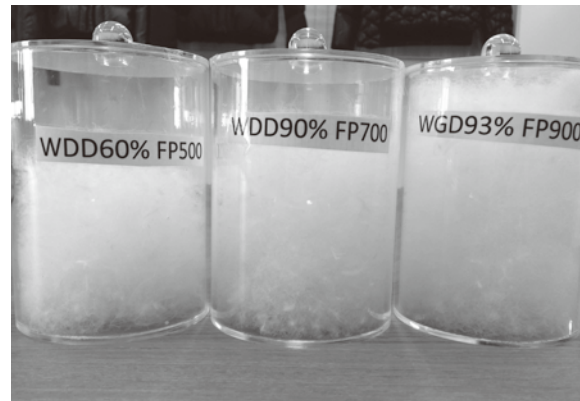
睡眠のくだりでは一般消費者へのアンケート結果による、ふとんの重要性にも触れて頂き、羽毛ふとんの普及が進んでいることを来場者にもご理解頂きました。

羽毛製品講習会を開催いたしました。【羽毛ふとんの知識啓発事業】

企業向け羽毛製品セミナー (ミズノ株式会社)

平成25年10月1日(火)大阪にて、ミズノ株式会社向けに羽毛製品セミナーを開催いたしました。当日はミズノ株式会社及び仕入れ先から30名参加し、派遣講師(羽毛製品アドバイザー)の東洋羽毛工業(株)佃光明氏よりダウンウェアを中心とする羽毛製品全般の知識につき、詳細な説明がありました。

最後に専門的な質疑応答があり、参加者からも大変参考になりましたとの感想を頂きました。



平成26年度消費生活講座「羽毛製品全般について」 (豊橋市文化市民部安全生活課)

平成26年2月25日(火)豊橋市安全生活課の依頼により、羽毛製品講習会を実施致しました。会場となった豊橋市役所東館12階会議室には消費者の方が36名集まり、羽毛の基礎知識のDVD放映、派遣講師(羽毛製品アドバイザー)の正絹羽毛ふとん(株)の立花功氏、(株)丸八真綿の岡本八大氏、三陽羽毛(株)の草田吉比朗氏による講習が行われました。講習の後には、展示見本として持ち込んだ羽毛ふとん、羽根ふとん、ダウンジャケット等の見本を消費者の方々に実際に触れて頂きながら、意見交換を実施しました。

最後の質疑応答ではリフォームについての質問も多く、アドバイザーより詳細に説明しましたので、大変有意義な講座だったとの感想を頂きました。



羽毛製品アドバイザー派遣を行っています。

日羽協では、消費者関係機関等において、消費者の皆様を対象として実施されている消費者講座などに、「羽毛製品アドバイザー」を派遣し、「羽毛製品の正しい知識、選び方、取扱い方」などの疑問にお答えすると共に、羽毛製品を正しくご理解をして頂く活動を実施しており、既に参加された受講者の方々から好評頂いておりますので、是非ご活用ください。ようご案内申し上げます。

1. 主な講座内容

羽毛製品(羽毛ふとん、ダウンウェア関係)の品質と価格、製品の選び方及びリフォームなど羽毛製品全般

2. 講師派遣に関する費用及び人数

講師派遣に関する費用は無料。ただし、会場設営等に関しては、主催者側でお願い致します。参加者人数は、約20名以上。講演時間は、約120分程度です。

3. 講師派遣申込み方法

当組合にご連絡ください。開催ご希望日、場所等に応じアドバイザーを派遣致します。各消費者関係機関での通年行事として、定期的な講演も承ります。 電話 03-5649-2285

羽毛ふとんのお手入れしてますか？

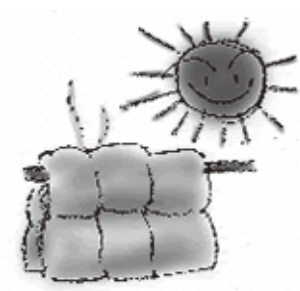
どれだけ品質の高い羽毛ふとんも、日頃のお手入れが大切です。

とはいっても、難しいことはありません。いつまでも心地よい眠りを得られるためにも、正しい知識でのお手入れが長持ちの秘訣でもあります。

■普段のお手入れ

羽毛ふとんは日に干してはダメ？

そんなことはありません。羽毛は吸湿・発散性に優れているため、他のふとんのように頻繁に干す必要はありません。しかし保温性を高めたり、日光消毒のため、月に1～2回、表と裏あわせて1～2時間程度の日干しをおすすめします。その方が本来のふとん機能が長持ちします。なるべく乾燥した状態を保つよう心掛けるのがポイントです。



干す効果は、湿気をとる、保温性を高める、かさ高性を高める、殺菌効果などがあります。ただし、側地の傷みや色あせを防ぐため、カバーや布でおおって干して下さい。

⚠ 干す時の注意ポイント

ふとんを干す際、特に気をつけたいのが「ふとんを叩かない」ことです。叩くことで側生地ダウンボール（球状の羽毛）が壊れてしまい、ふとんの寿命が低下してしまいます。パンパン叩く代わりに掃除機を軽くかけるといいでしょう。ただし破損の原因となりますので、掃除機で強く押したり、激しく吸引したりしないでください。

汚れたらクリーニングは？

カバーを掛けてお使いになれば、そんなに汚れることはありませんが、長くお使いの間にもし汚れが目立つようになったら、ドライクリーニングか、水で丸洗いができます。しかし、度重なるドライクリーニングは羽毛の油脂分が必要以上に除去されて機能低下を招きますので、回数はなるべく少なく配慮した方がいいでしょう。丸洗いは、羽毛への影響はほとんどないのですが、側生地の縮み・傷みから織り目がやや大きく広がり、羽毛が飛び出しやすくなる場合もあります。突発的に側地が汚れた場合は、すぐに水でつまみ洗いをしてください。洗剤が必要ならばアルカリ洗剤は避け中性洗剤を使います。また、側生地が絹の場合は水洗いは避けましょう。

羽毛ふとんをしまうタイミングは？

ふだんの心がけとして、ぜひ守ってほしい大切なことがあります。それは、日干しした場合も、朝しまうときも、すぐたたんでしまわないということ。干してすぐしまうと、押入れ内の温度も上がってダニにとっては好環境になりますし、夜使ったふとんは、体温や汗で温度も湿度も上がってしまいますから、しばらくそのままにして、朝の仕事の最後にしまうようにするとよいでしょう。こんな小さな心がけも、寝具に対する思いやりの一つです。

■シーズンオフのお手入れ

長く使わないときは…

まず日に干し、よく乾燥させ、汚れがあれば除去します。（クリーニングを済ませた後であればクリーニングの袋から出して収納するようにしてください）それから通気性のあるケースに入れるか、布で包んで押し入れの天袋やタンスの上など湿気のない場所に保管してください。（羽毛が傷みますので重いものをふとんの上に乗せたままにしないでください）通気性がなく湿気が多い状態ですと、蒸れて臭いを発生し、羽毛の品質を損なうことがありますのでご注意ください。特に長期間使わないときは、ときどき日干しをして乾燥させましょう。

ふとん圧縮袋は？

羽毛ふとんの保管に圧縮袋はオススメできません。やむを得ず使用する場合は次のことに注意してください。

- 袋に入れる前によく乾燥させましょう。
- 空気は抜き過ぎず元の高さの1/4程度の圧縮を目安にしましょう。
- 6ヶ月以上の保管は避けてください。
- 保管後使用する場合、使用する前に一度日干ししましょう。



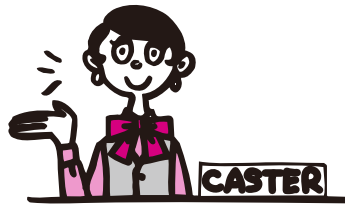
押入れにしまう前にはお掃除を！

羽毛ふとんは精毛過程で、高温乾燥する為ふとんからダニが発生することはありません。しかしダニのいないご家庭は全くとっていいほど皆無ですので押し入れの環境を整えてダニがふとんに住みつかないようにすることが必要なのです。寝具についたフケやアカ、たまったほこりなどは、ダニの大好物です。押入れ内のものを全部出したら、中性洗剤の溶液でしぼったぞうきんでよごれをふきとり、そのあと乾いた布でよくふきます。からぶきの布は、綿100%のものが、吸湿性もよく、布くずなどもつかないのでよいでしょう。このあと、十分風を通して乾燥させることは言うまでもありません。押入れ内をふくとき、とにかく床面ばかり気にしがちですが、天井部分、中段の裏側、壁面も忘れずにきれいにしましょう。よごれがひどくないときは、洗剤を使わず、コーナークズルをつけた掃除機をかけ、からぶきするだけでも十分です。せっかくきれいにしても水気が残ってしまっているのはいけないので、この点はくれぐれも注意を。

シーズンオフは丸洗いやリフォームのチャンス

2～3年に一度はクリーニング、5～6年以上お使用で、羽毛の偏りが目立つ状態であれば羽毛ふとんのリフォームをおすすめします。側生地を交換し必要場合は羽毛の洗浄と足し羽毛をすれば、お手持ちの羽毛ふとんを新しい羽毛ふとんによみがえらせることができます。リフォームをお考えの時は、当組合の認定事業者にご相談ください。

グースとダックの 農場からのレポート



アイダーダウン

アイダーダウンとは、北シベリア沿岸、アラスカ沿岸、カナダ沿岸やアイスランドと言った極寒の地に生息している体長50～60cmのアイダーダック（本毛綿鴨ホンケワタカモ）の巣から採れるダウンを指します。弾力性に富み、保温性に優れているうえ国際保護鳥に指定され希少性が高いので、羽毛の王様とも言われています。

アイスランドに住む人々は11世紀頃からアイダーダウンを使い始め、鳥を傷つけることなく羽毛を集める技術を生み出し磨いてきました。毎年、春が来ると、メスの親鳥は自分の胸元からダウンを引き抜き、子作りの為の巣に敷き詰め、卵を暖めます。4～5個の卵は4週間ほどで孵化し、順調に卵が孵れば親鳥は巣を離れます。役割を終えたダウンは、風に吹き飛ばされますが、アイダー農家がこのダウンを採取して回るのです。しかし一つの巣から採取できる量は、わずか20gほどと言われており、海岸沿いの断崖や足場の悪いところに巣をつくることもあり、ダウンの採取には手間がかかります。

ダウンは採取した後すぐに110℃の熱風で殺菌、乾燥後、昔ながらの専用の機械を使って除塵します。この後手選別によってフェザーを取り除いたり、塊をほぐしたりして製品として出荷さ

れます。アイスランドから輸出されるアイダーダウンは政府公認の検査官により重量と品質の管理がなされています。

アイダーダウンの特徴は柔らかい核を中心に細い糸状の羽枝が沢山広がった構造を持ち、これらの羽枝に微細なフック状の突起が出ていることが挙げられます。この鉤状の部分で他のダウンボールと絡み合い、ふわふわとした弾力のある塊となります。これをスティッキーダウンと呼びます。こうした細かい羽枝が絡み合ったダウンは沢山の空気を含み保温性が高くなるため、羽毛ふとんに仕立てた時、より少ない充てん量で暖かく、軽く仕上げる事が出来ます。

希少性の高いアイダーダウンですが、現在では100名程からなるアイダー農家が繁殖地の自然を保護し、巣を作りやすい環境を整える等、アイダーダックとその自然の生息地を保護しようと活動しています。こうした活動を支える為、彼らはアイダーダック協会を発足させ、アイダーダックから得られる収益を繁殖地の環境整備などに充てています。



資格認定制度『睡眠環境・寝具指導士』 がスタートしました。

健康を支える3本柱は、「栄養」「運動」「睡眠」であり、誰もがその重要性は認識しているものの、多くの一般消費者は睡眠についての知識や理解は充分とは言えず、快適な睡眠環境を創る寝具についても、知識を持っていないのが現状です。

健康な睡眠は、「人：睡眠生理」、「環境：寝室環境」、「もの：寝具」の3つの要素から成り立つものと考えられます。寝具業界としては、消費者に商品の提供だけでなく快適な睡眠環境創りのための相談やアドバイスが出来る知識が必要であります。

そこで、全日本寝具寝装品協会・（一財）日本ふとん協会では、日本睡眠環境学会の協力を得て、寝具寝装品業界の発展と国民の健康の維持と向上のため、「睡眠および寝室環境と寝具寝装品」の正しい知識を有する人材の教育を目的としたテキスト「睡眠環境と寝具（寝具編、睡眠編）」を初めて編集整備し、資格認定制度『睡眠環境・寝具指導士』を導入することに致しました。

第1回『睡眠環境・寝具指導士』教育セミナーは、平成25年9月20日・21日の2日間、東京と大阪の2箇所において、初日は寝具編、

2日目は睡眠編のセミナーを134名の受講者の参加を得て開催しました。また、第1回『睡眠環境・寝具指導士』認定試験は、教育セミナー終了後に寝具編、睡眠編の順で実施致しました。

受験者は、東京・大阪で210名となりました。試験結果は、平成25年10月10日（ふとんの日）に全日本寝具寝装品協会、（一財）日本ふとん協会のホームページ上で合格者135名を発表し、11月1日に認定登録を行いました。



「水鳥羽毛は ここがいい」



安心くんの
ひとりごと

羽毛ふとんメーカー「安心堂」の若社長「安心くん」。
羽毛ふとんのことや原料の羽毛の事などを、皆様にわかりやすく解説します。
今回は、羽毛ふとんに水鳥の羽毛が選ばれる理由を…。

水鳥の羽毛は、進化の過程で皮膚が変化したもので、哺乳類の体毛や魚の鱗に当たりケラチンたんぱく質で出来ています。羽毛ふとんには、鴨や鷺鳥のような家禽化した水鳥の羽毛が使われます。水鳥の羽毛は、ダウンとフェザーの2種類からなりそれぞれが重要な役割を持っています。フェザーは、湾曲した羽軸を持ちその両側に羽枝があり、羽枝の両側に小羽枝が付いています。この小羽枝同士が絡み合い隙間を無くすることで空気の流入を防ぎ、衣服に例えるなら上着の役目をします。一方ダウンは羽軸を持たない羽毛で小さな元羽軸と呼ばれる核のような部分の先端から派生した羽枝と、羽枝からほぼ等間隔で派生している小羽枝からなるタンポポのような形をし、空気を包み込む形状をしています。ダウンは水鳥の皮膚全体に生えていますが、特に胸部から腹部にかけて多く見られ、肌着の役目をしています。このダウンが、水鳥羽毛の特徴です。渡り鳥である鴨や鷺鳥は、上空数千メートルを飛行します。大気の温度はマイナス40度以上にも達する極寒の空間であり、そこを飛行すると体感温度はさらに低くなるため体温を内側で保持する機能が求められます。これがダウンの役目です。フェザーは冷たい風をさえぎり、ダウンは内側の体温を逃がさず保温するため羽毛は水鳥にとって大変重要な役割を担って

います。長い鳥類の歴史の中で、渡り鳥には、体温の保持と風の進入を防ぐ効果、それに軽い機能を持たせたのです。陸鳥の羽毛は上空に比べれば温かい陸地に生息しているため保温効果を高めるダウンは必要ありません。

水鳥と陸鳥では、フェザーも大きく違います。水鳥である渡り鳥は寒さを防ぐことはもちろん、長い距離を捕食なしに飛ばなければなりません。そのため、軽量であることは絶対条件となり陸鳥のフェザーと同じ大きさでも重さは半分程度です。また鶏や七面鳥のような陸鳥は、飛ぶ必要がないために羽根が重くなったと言うより、外敵から身を守るために長い年月をかけて上着をヨロイ化しようとしています。あと何年かかるか分かりませんが、……

生き物の表面は、羽毛、獣毛、鱗、粘液などで覆われて、それぞれの役目を果たしていますが、水鳥だけはダウンとフェザーという形態の違う2種類の羽毛で覆われ異なった役目をしています。水鳥の羽毛がふとん材料に適しているのは、とにかく軽く、空気を多く含むダウンの保温効果にあることはいうまでもありません。